

○ 新日本産苔類 *Acrobolbus* (服部新佐) Sinsuke HATTORI: The genus *Acrobolbus* (Hepaticae) in Japan.

私は先年武蔵の奥多摩御嶽及び氷川町天祖山から *Leiocolea titibuensis* Hatt. を sterile 標本に基いて記載した (Journ. Jap. Bot. 19: 197-198, 201, fig. 17. 1943). 本種は葉縁から1細胞性の長毛(假根と同性質)を生ずる特色がある。其後米國の A. J. Sharp が同様な特色をもつ種を數年前記載して居ることを知つた。 *Acrobolbus rhizophyllus* Sharp (Bryologist 39: 1-2, pl. 1. 1936) がそうである。彼も矢張り sterile 資料に基き, "This liverwort is placed tentatively in the genus, *Acrobolbus*....." 又 "Similarities exist between it and certain species, of the subgenus, *Leiocolea*, of *Lophozia*," と述べている。兩者は上述の顯著な特徴の外すべての點で類似して居り, 恐らく同一種にまとめられるものであらう。兩者はまたその分布が古い山地の或る狭い地域に局限され, 生殖器官が未知で無性的に殖え局部的に群落を形成する點で一致している。 *A. rhizophyllus* の産地に就て Sharp は "On moist cliffs, Roaring Fork Creek, Mt. LeConte, Great Smoky Mountains National Park, Tenn., alt. 5,000 ft." と記録し, 其後 "On wet ledges and rocks above 4,000 ft. Rare. Sevier County." と述べた (Amer. Midl. Naturalist 21: 276. 1939). 我國でも上述の如く武蔵の2山, 500~1300 m の岩壁に見出されたのみである。

所が更に1種非常に近いものがあることに気付いた。それは古く Hooker がインドの Sikkim Himalaya よりもたらした *Acrobolbus ciliatus* (Mitt.) Schiffn. (Nat. Pfl.-fam. 1 (3): 86. 1893) で, Stephani (Spec. Hepat. 2: 175. 1902) は2裂する本種の葉裂片を "Lobis late ovato-triangularis, antice distincte minore, toto margine ciliis approximatis longissime capillaceis instructe." と記載した。本種も同様生殖器官未知である。當時 Schiffner (l. c. 1893) はこの1種のために subgen. *Lophocoleopsis* を設けたが前述の2種も本亞屬に入る。

生殖器官を見ない限りこれら3種の分類學的位置を決定することは困難であるが, 私も Schiffner 及び Sharp に従ひ邦産 *Leiocolea titibuensis* Hatt. を *Acrobolbus* (subgen. *Lophocoleopsis*) に移し *A. titibuensis* (Hatt.) comb. nov. としたい。葉縁の刺毛の發生は *A. ciliatus* が一番顯著で *A. titibuensis* が最も弱い。私は御嶽産のものを東京大學理學部植物學教室の温室で1年餘り培養したが, 温室内で生じた新しい葉には殆ど刺毛が生じなくなつてしまつた。天祖山産の標本は御嶽産の標本に較べて刺毛の數が少く, 1葉に2,3しかないもの乃至全く刺毛を缺除する葉も認められた。

以上に依て日本産苔類に新しく *Acrobolbus* 屬が加わり *Leiocolea* 屬が無くなることになるが, 後者は日本にも分布する, *Lophozia* 屬の亞屬にすぎないと考える。兎に角こんな特異種がシツキム・ヒマラヤ, 秩父, 南アパラチャ山脈の1部分に不連続的に分布し, 而も生殖器官未知で無性的に増殖し古い山地の極く局部的な特殊な環境に群落をなす點は私の興味をひく Pre-tertiary の relic と見られるものであらうか。